



CIRのつぼやき

2026.03.01 第71号

モンゴルの歴史を旅する～遊牧国家から現代へ

モンゴルは、見渡す限りの「大草原」と「青く高い空」の国です。厳しい自然環境の中で育まれた遊牧民の力は、時に世界の歴史を根底から変えてきました。古代から現代まで、その壮大な歴史を辿ってみましょう。

馬を駆る遊牧民族の誕生

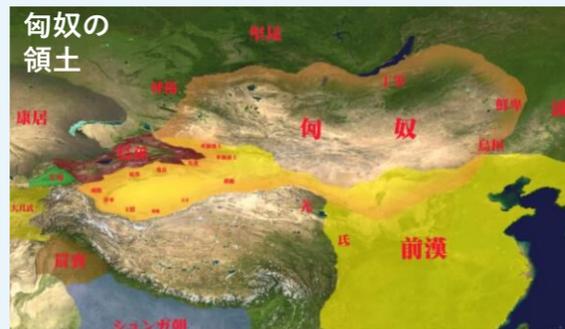
モンゴル高原は、紀元前から最強の騎馬民族が入れ替わり、立ち代わり覇権を争う舞台でした。

紀元前3世紀、バラバラだった遊牧民を初めて統一したのが匈奴（きょうど）です。

匈奴の後も、鮮卑（せんび）、柔然（じゅうぜん）、突厥（とっけつ）、遼（契丹）（きったん）といったモンゴル系、テュルク系遊牧民族が強大な国家を築き、東アジアから中央アジアに至る広大な「草原の道」を支配しました。



胡獵図 騎馬民族（匈奴）が虎や鹿を狩る姿を描いている。
17世紀の朝鮮王朝時代の絵描



チンギス
ハーン
モンゴル国
建国者



モンゴル帝国の最大版図とその後の分離



チンギス・ハーンとモンゴル帝国

13世紀、モンゴルの歴史、そして世界の歴史において最大級の転換点が訪れます。

長く続いた部族間の抗争を勝ち抜き、**1206年**に全モンゴルを統一したのが、**テムジン**のちの**チンギス・ハーン**です。彼は、法による統治と、実力主義の軍隊を作り上げました。**人類史上最大の陸上帝国モンゴル**の軍は圧倒的な機動力と情報収集力で、中国、中央アジア、ロシア、中東、そして東ヨーロッパまでを席卷、朝鮮半島から東南アジアまで影響下に置く、人類史上最大の連続した領土を持つ帝国を築きました。



「蒙古襲来合戦絵巻」国立国会図書館

孫の**フビライ・ハーン**の時代、帝国は日本にも服属を迫りました。これが**1274年**と**1281年**の「**元寇（げんこう）**」です。当時の最新兵器「**てつはう（火薬武器）**」や集団戦法に日本軍は苦戦しましたが、暴風雨（神風）の影響もあり、モンゴル軍は撤退しました。日本史上最大の危機の一つとして知られています。

パクス・モンゴリカ時代：帝国内には駅伝制（**ジャムチ**）が整備され、商人が安全に旅できるようになりました。これにより東西の物産、技術、宗教が混ざり合い、**マルコ・ポーロ**のような旅人も現れました。



CIRのつぼやき

2026.03.01 第71号

モンゴルの歴史を旅する～遊牧国家から現代へ

大帝国の分裂後、モンゴルは存続をかけた困難な時代を歩むことになります。

1368年に中国大陸の支配権を失った後、故郷の草原へ戻りました。その後、モンゴルとオイラトなど部族間での主導権争いが続く「**北元（ほくげん）**」時代が続きます。

17世紀末には**清（満洲族の王朝）**の支配下に入ります。清朝はモンゴルを「**内（南）モンゴル**」と「**外（北）モンゴル**」の二つに分けて統治し、これがのちの国境線の基礎となりました。

清朝の政策もあり**チベット仏教**が全土に浸透。多くの寺院が建てられ、今も人々の精神的な支えとなっています。政治的支配を受けつつも、彼らはモンゴル文字や遊牧文化を大切に守り、たくましく独自の生活を次世代へとつなぎました。

激動の再編期：15世紀～19世紀



近代革命から現代へ

20世紀、モンゴルは「独立」と「民主化」を求めて3つの大きな転換点を経験しました。

三つの歴史的出来事

- **1911年（独立宣言）**：清朝の滅亡に乗じて、北モンゴルが長年の支配から脱し、宗教指導者ボグド・ハーンを頂点に抱く**モンゴル国**として独立を宣言しました。これは近代モンゴル国家の夜明けとなる大きな出来事でした。
- **1921年（人民革命）**：ロシア革命の影響を受けた「人民革命」が起こり、1924年にはソ連に次ぐ世界で2番目の**社会主義国**となりました。この時代には、文字の普及による識字率の向上や医療・教育の近代化が進み、現在の国家の基礎が築かれました。
- **1990年（民主化）**：ソ連の崩壊に伴い、一滴の血も流さない平和的なデモによって民主化を達成し、複数政党制と市場経済へ移行しました。

現在のモンゴルは、**日本を最も親しい「第三の隣国」**と呼び、非常に友好的な関係を築いています。大相撲での力士たちの活躍は両国の絆の象徴となっており、豊かな自然を活かした観光業や世界屈指の規模を誇る鉱山産業、そして急速に発展するIT産業など、伝統ある遊牧・畜産業と最新技術が共存する、活力あふれる国として歩み続けています。 ②



国旗



国章



モンゴルの風景（写真家エルデネブルガン氏の提供）